

舞鶴中ブロック小中連携校

配置・平面レイアウト検討資料

平成22年7月29日

日建・志賀・衛星都市設計共同企業体

■基本的な考え方

1. 配置計画について

○建物と運動場の配置について

施設を、校舎棟と運動棟に大きく分け、北側に校舎棟を、南側に運動棟を配置。

学校運営や周辺環境を考慮し、一部地下階活用による中層案とする。

運動棟は一部半地下とし、屋上部分（校舎棟2階レベル）をグラウンドとして整備することで、2階を主階とする使いやすい校舎を実現。

グラウンドは野球に対応する広さ（90m×90m）を確保し、小中の授業に対応可とし、利用が重複する部活動の時間帯は、小学生の遊び場を別途確保。

グラウンドは、将来整備する西側グラウンドと上空通路でつなぎ、一体的に利用する予定。

○正門・通用門の配置について

校区内の児童生徒数の分布状況、前面道路の整備状況、施設の配置計画をふまえ、児童生徒用の正門を敷地北西側に配置し安全管理を徹底。

登校した児童生徒は大階段を上がり、2階の昇降口より校舎内に入る。

来客用玄関は、正門側の1階に配置。通用口は敷地北東側に設け、車のアプローチを集約することで西側正門との歩車分離をはかる。

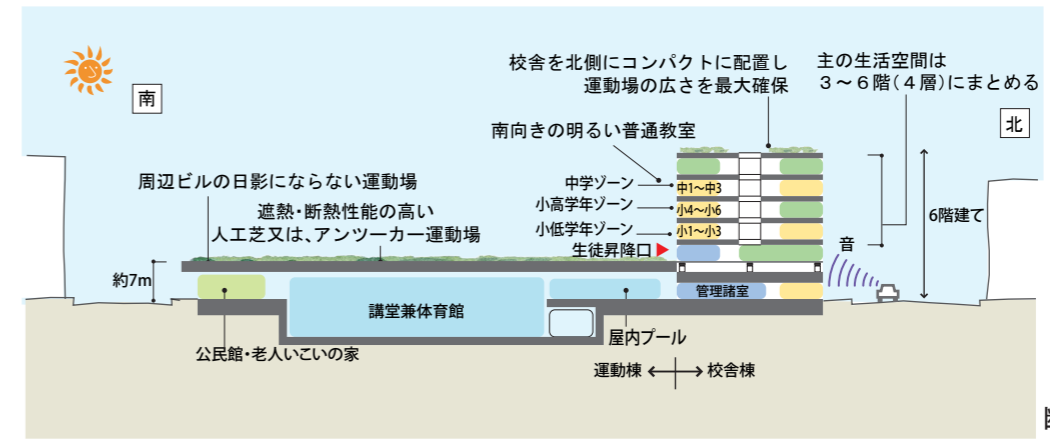
○公民館等施設の配置について

公民館は南側の広い歩道に面した南西側角とし、より校区の中心となるよう配置。

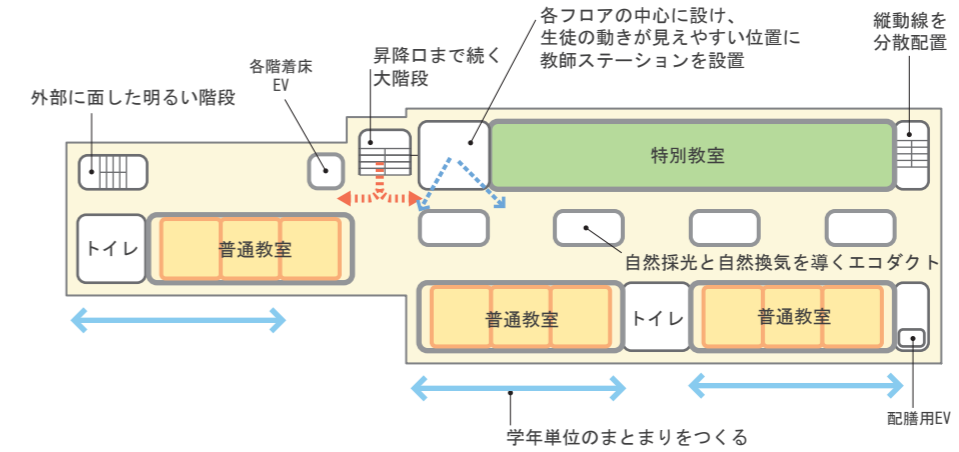
留守家庭・子ども会室は西側の将来グラウンド予定地（現検察庁）に近い正門際に設け、グラウンドへもアプローチしやすいよう計画。

○地域開放施設の配置について

グラウンド、体育館、柔剣道場、温水プール、テニスコートなどの運動施設と音楽室やランチルーム等の一部の特別教室を地域に開放しやすいよう配置。



断面構成イメージ



校舎棟平面イメージ

2. 平面計画、安全対策、環境配慮などについて

○小中一体施設での小学校と中学校の区分

小学校、中学校の学習空間をフロアで明確に区分。

図書室やランチルームは、小中共用施設として集約化。

○児童生徒等の移動

各教室から特別教室への移動は最大3層とすることで、階段利用を主たる移動手段とする。

障がい者、高齢者、及び地域開放利用者の利用に対応するEVを設置。

○学校内の安全確保

死角を極力解消するため、グラウンドや子どもの遊び場は職員室、校長室、保健室から見通せる配置とするとともに、各階に教師ステーションを配置。

開口部からの落下防止策（手すりの設置、バルコニーは設置しない等）を徹底。

○災害時の拠点施設となる施設

災害時の避難場所となるため、警固断層を考慮した耐震性能の向上など、安全性の確保と施設の充実を図る。

地下の体育館については、日常的な使い勝手を考慮した上で万全な浸水対策を行う。

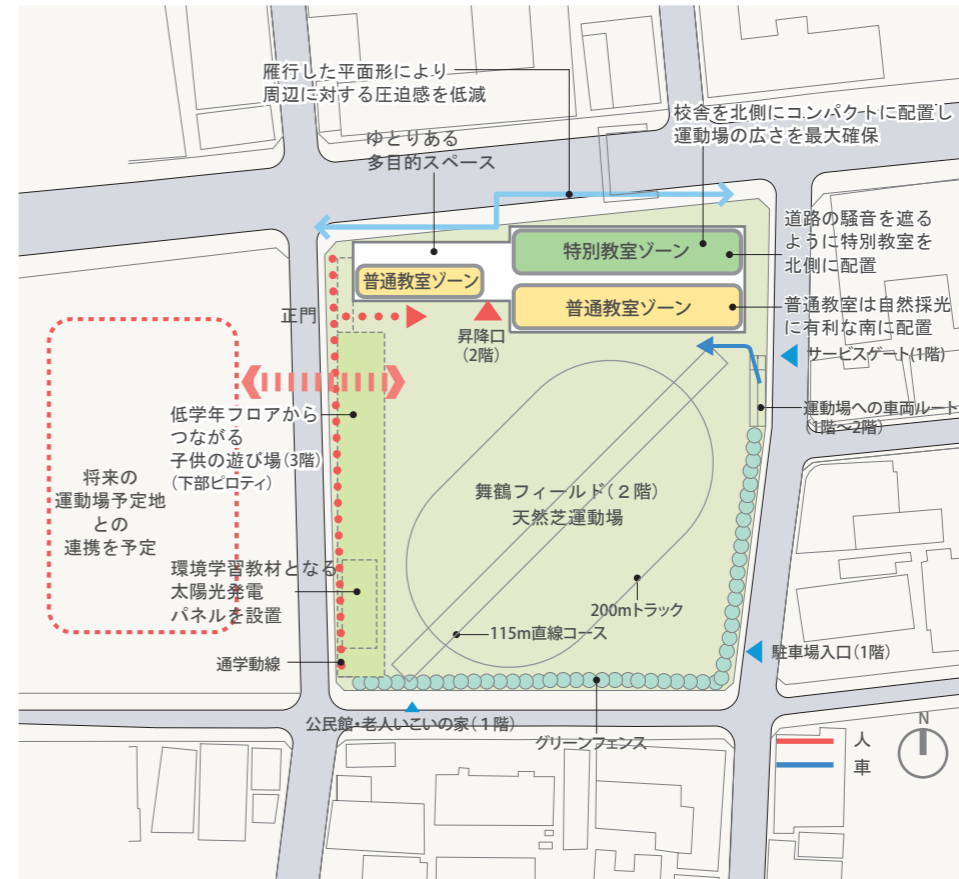
○施設開放に対応した施設管理区分，駐車場の確保

施設開放を考慮した計画とし，明快な管理区分を設定。

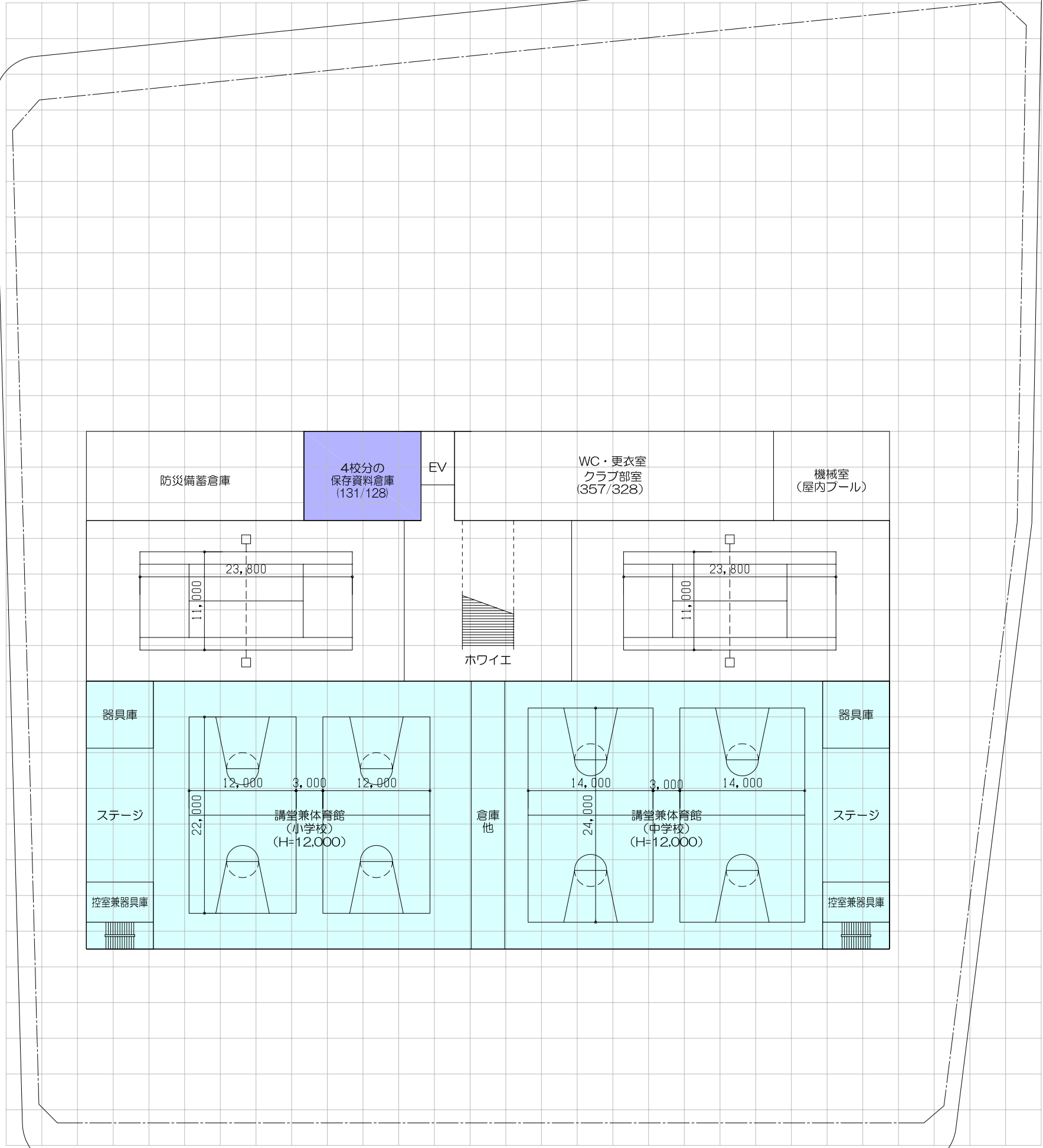
約50台分の駐車場を確保。

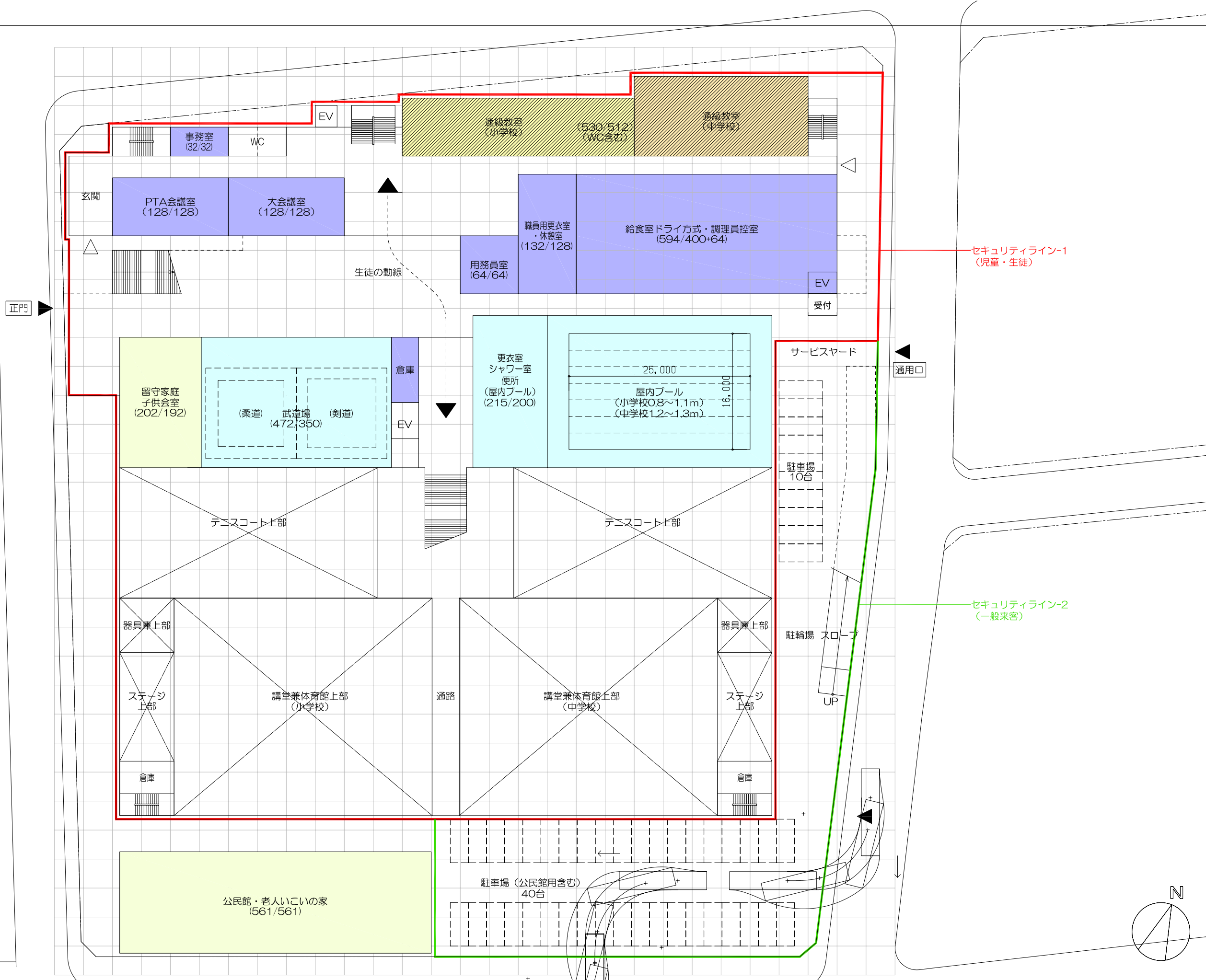
○環境への配慮

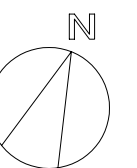
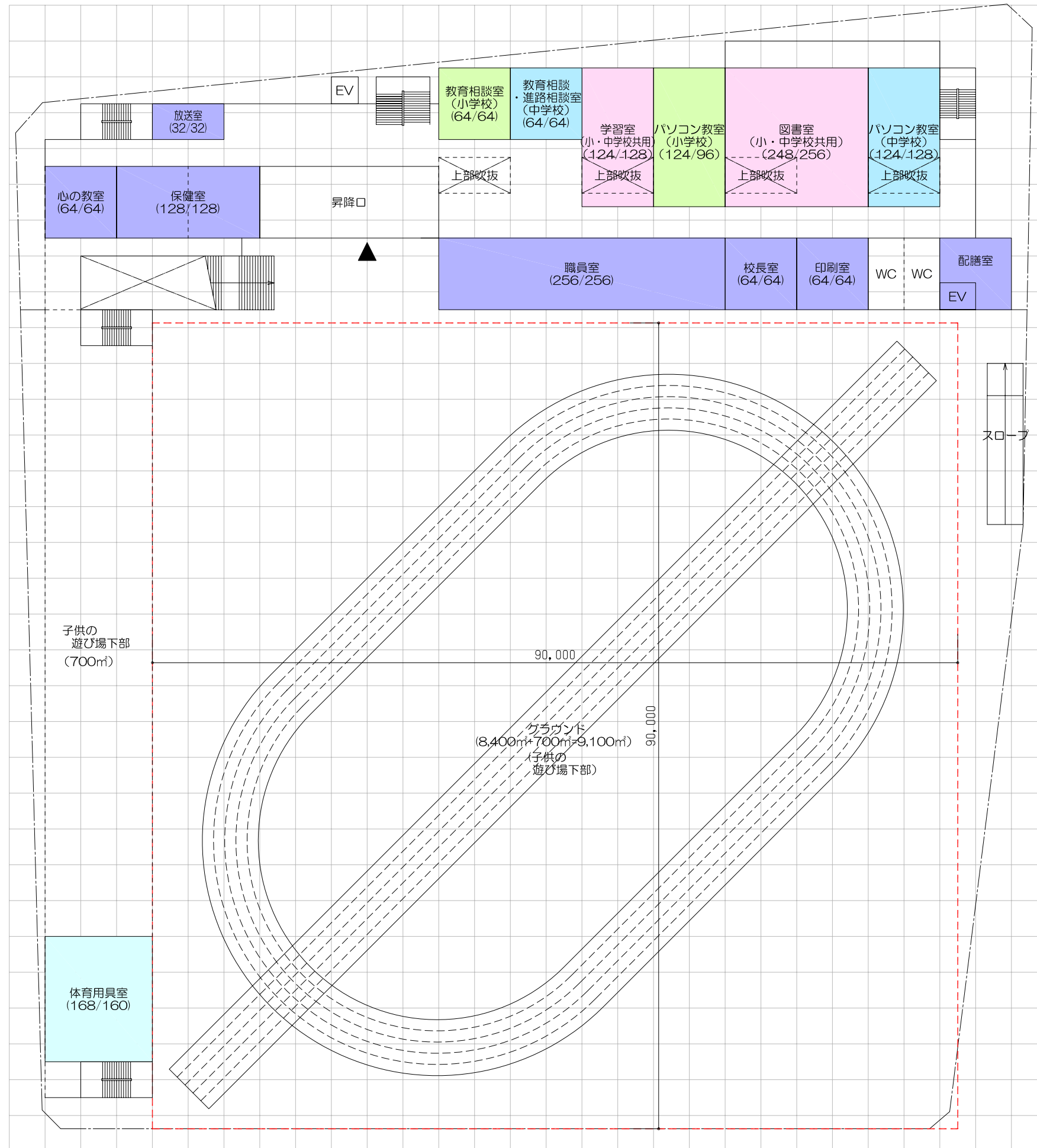
通風や採光への配慮と，太陽光発電など自然エネルギー活用や地熱等を利用した空調負荷の低減，節水対策など環境に配慮した学校づくり。

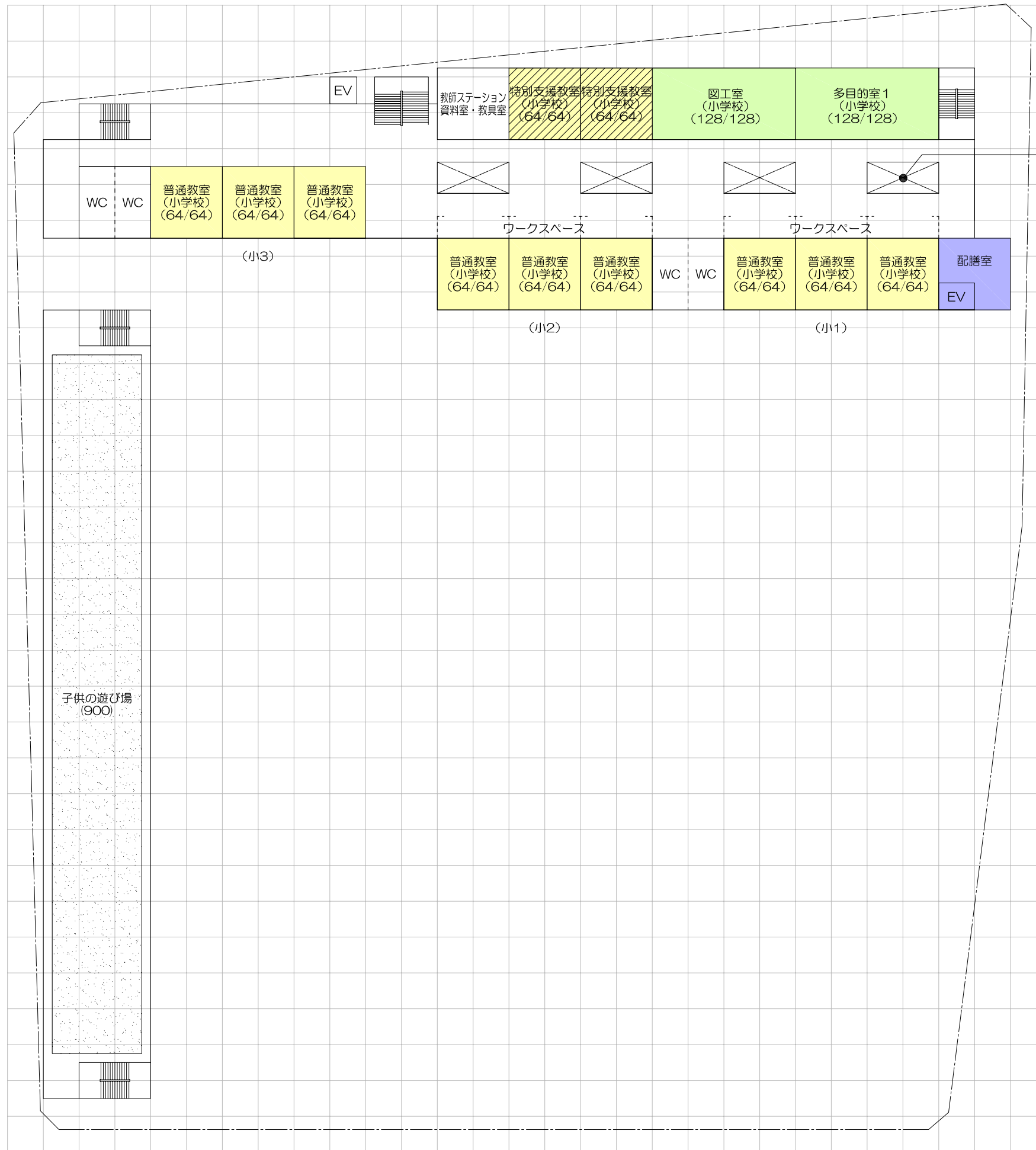


配置イメージ

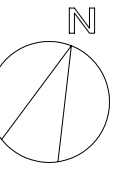


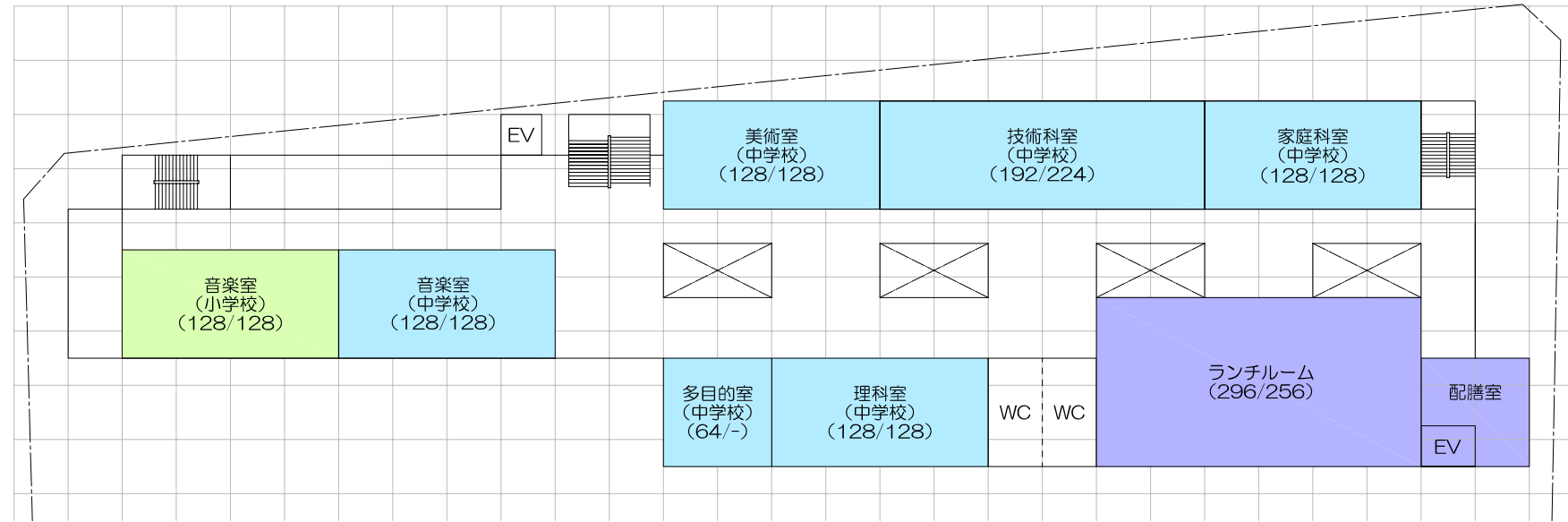




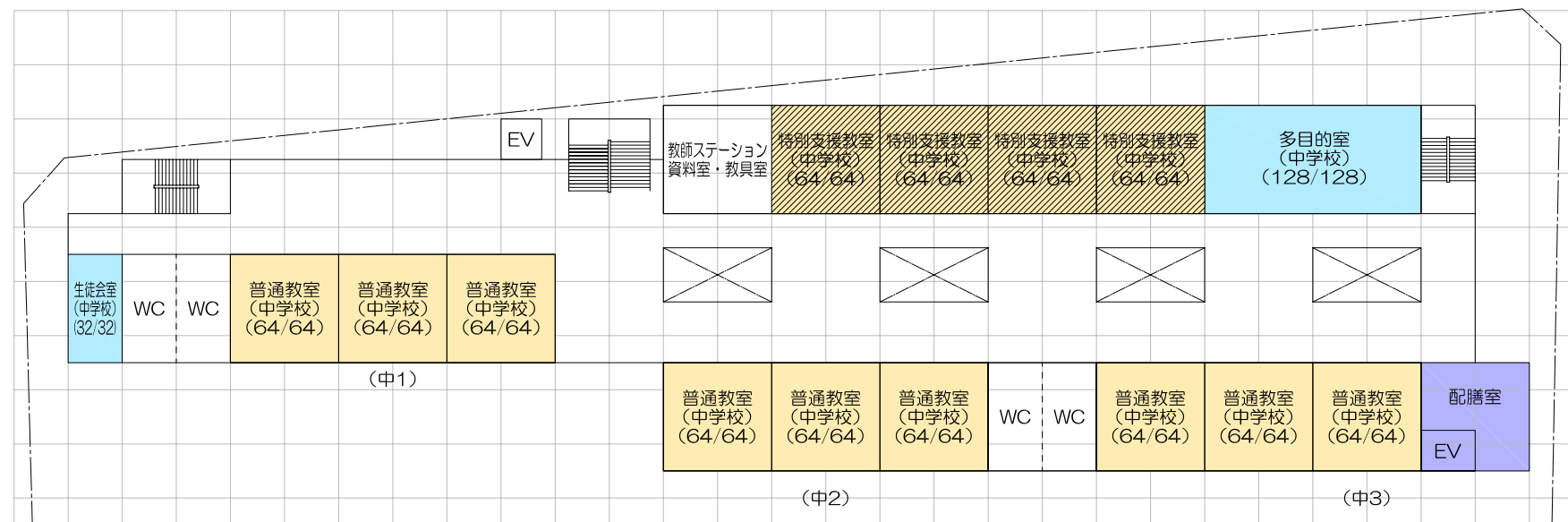


風や光を取り入れる吹き抜け（エコダクト）のイメージ
 ＊形状、大きさ、数については検討中

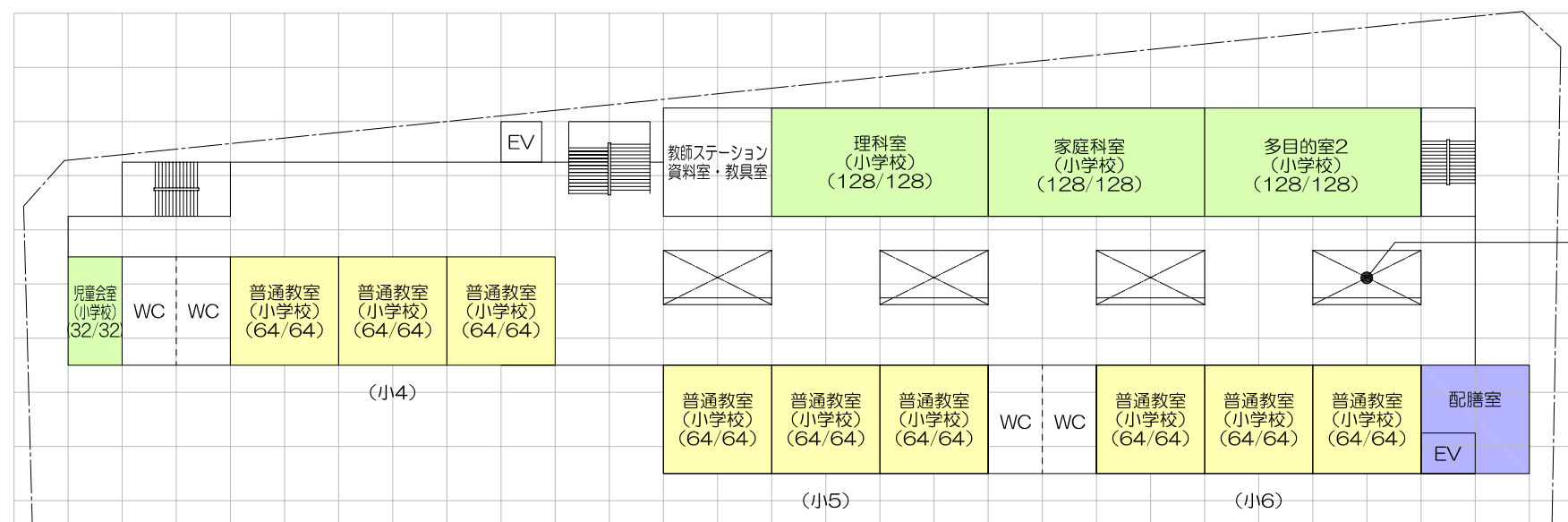




6F



5F



4F

風や光を取り入れる吹き抜け（エコダクト）のイメージ
*形状、大きさ、数については検討中

